北海道・五稜会病院における急性期、ストレスケア病棟を中心とした精神科医療と院内IT化

北海道札幌市　五稜会病院
中島公博
平成24年2月25日

五稜会病院概要1

- 札幌市　人口　188万人
  - 札幌市北区　人口　27万人
- 精神科病床を有する病院
  - 札幌市
    （民間病院　30、国公立　2）
  - 札幌市北区　7
    （民間病院　6、国立　1）

五稜会病院概要2

- 精神病床　193床
  - 急性期病棟　38床
  - 療養病棟　107床　（開放　54床、閉鎖　53床）
  - ストレスケア・思春期病棟　48床
- 附属施設
  - デイケア　70人＋50人＝120
  - 共同住居
- スタッフ
  - 医師：常勤7名＋非常勤5名
  - 看護基準
  - コ・メディカル　心理　7名　PSW　7名　OT　4名

特徴：急性期を中心に、年齢層の若い患者が多い

五稜会病院概要3

昭和48年　田中病院 開設 病床数130床、職員数46名
昭和61年　改築205床　多床室12部屋創設
平成７年　大規模増改築、消化器科標榜、
平成８年　精神療養病棟60床、心療内科標榜
平成９年　五稜会病院 名称変更　院外薬局開始
平成11年3月　五稜会病院ホームページ作成
平成14年7月　FIFAワールドカップサッカー大会札幌で開催
平成15年6月　日精協学会開催（札幌・学会長：田中稜一院長）
10月　ストレスケア・思春期病棟(48床)開始
平成16年2月　療養病棟（閉鎖53床）、急性期病棟(38床)
病床数205床→193床
3月　院内LAN設置、GMC net's 運用
4月　院内ホームページ作成

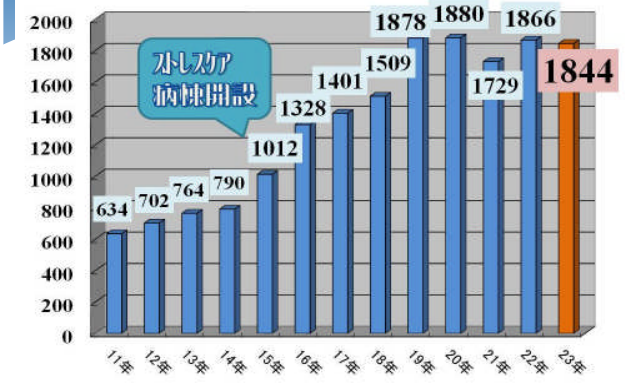
五稜会病院概要4

平成16年9月28・29日　医療機能評価受審
平成17年6月20日　「精神科病院」ver.4.0　で認定
4月　臨床研修医受入れ開始
11月　オーダリング開始
平成19年4月　サイマトロンによるm-ECT開始、思春期集団療法
復職支援プログラム（リワーク・ヴィレッジ）、IRB（治験委員会）
9月　歩歩キッズ（保育所）開設
平成20年4月　看護カウンセリング
平成21年8月　病院敷地内完全禁煙
10月29・30日　医療機能評価更新受審
平成22年3月5日　「精神科病院」ver.6.0　で認定
6月　電子カルテ導入準備
10月　電子カルテ稼働

五稜会病院変革の契機

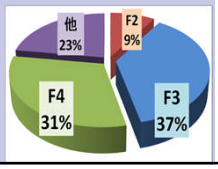
- 平成15年10月　ストレスケア病棟開設
- 平成16年3月　院内LAN設置、
  GMCNet's、院内ホームページ開設
- 平成17年6月　病院機能評価認定
- 平成17年11月　オーダリング開始
- 平成22年2月　のぞえ総合心療病院見学
  4月　朝の全体ミーティング開始
- 平成22年10月　電子カルテ開始

年度別新規患者数

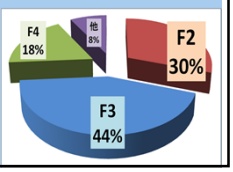


外来患者さんの内訳

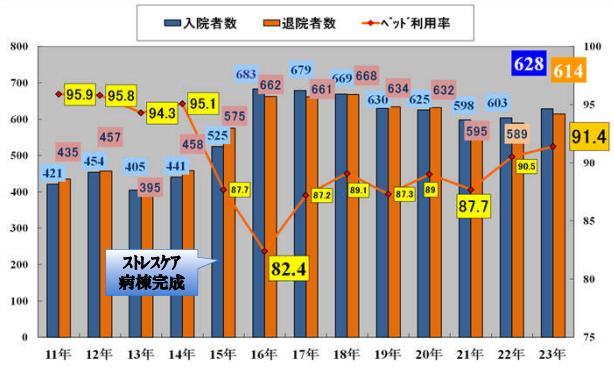
- 2011年度
  新患1,844名
- 平均年齢　35,5歳
- 年代
  10・20・30代それぞれ20%
  50代までで9割
- 男:女　847:997
- 診断



- 2011年12月
  受診者2,628名
- 平均年齢　42.7歳
- 年代
  10代　6%　20代　16%
  30代 25% 60代まで95%
- 男:女　6割は女性
- 診断



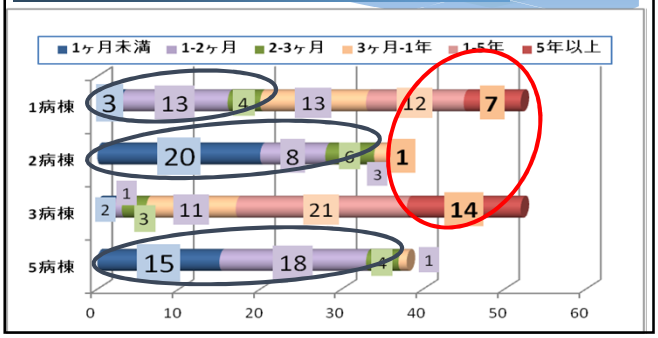
年度別入院退院者数・病床利用率



入院者の概要　病棟毎の入院期間別患者数

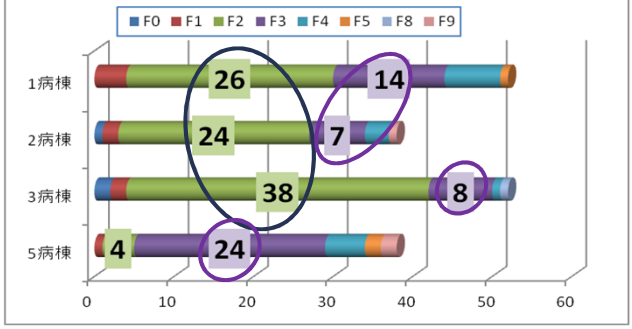
2病棟は半数が1ヶ月、1病棟でも4割は3ヶ月以内
5病棟では2ヶ月以内が3/4、全体の半数は3ヶ月以内
5年以上の長期入院者は22名

12月15日 現在
180名



入院者の概要　病棟別診断名　180名

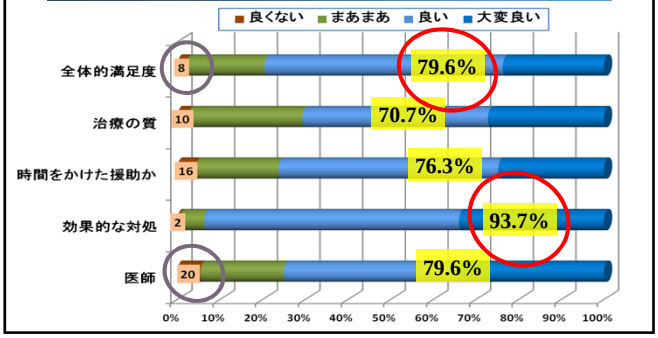
入院患者の半数は統合失調症(F2)です。
1病棟には気分障害も多い。3病棟は慢性統合失調症者が多数。
2病棟の6割は統合失調症、5病棟の6割は気分障害です。



退院時満足度調査　399/525名

（平成23年1月～10月31日）

回収率　76.0%（前年72.3 %）
全体的満足度 79.6%（前年82.1 %）　良くない 8名



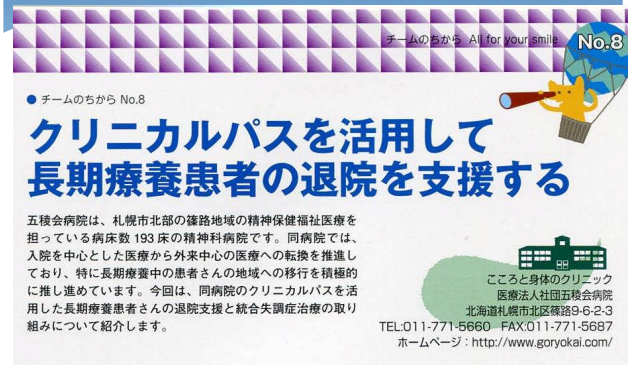
ストレスケア病棟研究会

日本ストレスケア病棟研究会は、うつ病を中心としたストレス関連疾患に対して治療を行う病棟を持つ病院による研究会です。個人の治療技術の向上やチーム医療の充実を図り、社会的要求に応えることを目的として活動しています。

* 2000年 4月
  * 不知火病院（福岡県）松原病院（福井県）戸田病院（埼玉県）草津病院（広島県）の4病院が発起人となり日本ストレス病棟研究会を結成。
* 2011年 1月
  * 五稜会病院（北海道）
    十全病院（石川県） 入会

リワーク・ヴィレッジ

退院支援　紹介



学会・研究会

2012年度：　学会発表計画案

	学会名	時期	場所・日程	題数	筆頭者	部署と発表候補者	指導
優先的・定期発表学会	①北海道病院学会	7月	札幌ロイトン 7月	3		① 看護部 ② CP ③ DC	
	②日精協学会	2012 10/9～10/10	大阪国際会議場	3		① 看護部：2病棟鈴木（大） ② OT ③ PSW	
	③札幌市病院学会	2月	札幌2月	3		① 看護 ② DC ③	
	④日本心身医学会	2月	札幌2月	1	なし	① CP	

他にも多数発表の予定をしている。

学会・研究会の発表は医療レベルの向上のみならず、病院の取り組みを世間に知らしめる手段、営業活動

ホームページ

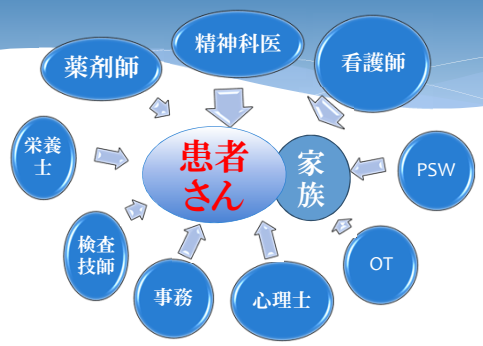
理事長自ら管理、リアルタイムの変更・更新

- 情報公開
  - 病院理念・方針・診療内容・最近のトピックスなど
- 研究内容提供
  - 学会・研究会の発表内容提示、看護研究内容表示
- 人事・採用
  - 医師・指定医募集案内、看護師募集

看護研究

クリックすれば閲覧できる。

チーム医療の推進



精神科医療はﾁｰﾑ医療が大事、医師だけではなにも出来ない。その際、情報の共有化を図ることが必要

精神科医療の特殊性

患者さんからみた要因
- 自らの状態と適切に表現できない。
- 客観的なﾃﾞｰﾀが得られにくい。

医療スタッフからみた要因
- 医師・看護師以外にも多数の職種が必要
- 患者数に見合わないスタッフ数

業務内容からみた要因
- 精神保健福祉法などの書類、綴り、書類の山

スタッフ間の連携、如何に情報の共有化を図るか
迅速な書類整理、管理

IT化の流れ　現在までの取り組み

ステップ1　H16年に院内ネットワークを構築」
- グループウェアの導入（電子メール・電子掲示板）

ステップ2　H16年に院内ホームページを構築」
- 業務マニュアルの電子化（医療機能評価　受審）

ステップ3　H17年にオーダリングシステム導入」
- 診療支援システム（処方・検査・食事・病床管理　）

ステップ4　H22年に電子カルテ稼動

院内ネットワークの構築
情報伝達ツール

H16年　増改築工事を機に院内LAN・サーバの整備（PC60台）
IT促進委員会設置『利用規定』『セキュリティー対策』整備

GMCnet/s　RICOH

- グループウェア
  - 電子メール・電子掲示板・スケジュール管理）
  - 情報の共有、コミュニケーションを円滑にし、業務の効率化を図る

情報の一元管理　院内ホームページ

五稜会バイブル

- 業務マニュアルの電子化、スタッフの勤務表
- 研修会資料、患者用パンフレット、DI情報、各種書式・規定
- 最新情報がリアルタイムに共有、ペーパレス化
- 職員が何時でも閲覧可能

オーダリングから電子カルテへ

診療支援システム Alpha

業務の効率化

H17年　電子カルテに先駆けオーダリングシステムの導入
診療支援システム「アルファ」（㈱ベータソフト社）導入
処方オーダ、検査オーダ、給食オーダ、病床管理、文書管理　稼動
医事コンとの連携により診療報酬の取りこぼしを無くした

・H22年　ネットワークの再構築（PC120台）
・回診対応のため一部無線化
・データベース　サーバの再構築

患者情報の共有

H22年　電子カルテへ移行
患者情報（診療録・他）の共有
コメディカルの記録を共有
（PSW・CP・OT・デイケア・訪問・他全て）
文書管理・帳票管理
お小遣い管理

紙カルテ　から　電子カルテに

運用の見直しは大きな壁

・当院の紙カルテでの運用ルールに大きく見直しが必要となりました
・良くも悪くも紙カルテの柔軟性(融通性)は電子カルテに通用しない・・・

開発元へ要望書の提出

・現場のニーズとシステムに相違があり開発元と再検討、要望書の提出
A：改善しないと機能しない　B：出来れば改善してほしい　C：今後の改定で見直してほしい
結果、双方での歩み寄りで新たな業務フローが作成された　（現在も進行中）

ついにリハーサルを迎え

・委員中心でシステムの肉となるマスタを作成
・稼動2週間前に開発元とリハーサルを実施
（外来・入院の数パターンを作成）
→不具合の再調整

本稼動日の朝

電子カルテになって良かったこと

導入過程で業務フローチャートを作成したことで各職種の業務運用を見直すことが出来た。

* 文書管理システムでは診療録(しっかりとした記録があれば)からの転記で書類作成が容易になった。
* 医事コンと連動することで精神療法などの記事記載が直接コストに反映。
* いつでもどこでもカルテ記載が可能、記録が楽。
* 多職種の情報が閲覧できて患者情報の共有化が図れた。

院内IT化の有用性

院内情報システム(グループウェア・院内ホームページ)での情報共有。

* メールでの情報交換により業務の利便性が大きく向上。
* 診療支援システム(オーダリング・電子カルテ)により、多職種が患者の情報を共有し、治療経過を把握することでチーム医療を発揮できる。
* 多職種の記録の統合により診療録の記載内容の充実が図れた。
* 以上より
  * 昨今、記録、文書作成が増える医療制度にあっては病院のIT化は非常に有効である。
  * システムの導入による業務の効率化で患者サービスの向上につながり、強いては病院経営にも役立つ。

今後の課題　1

院内情報システム・電子カルテの導入は、小規模病院において費用の面で負担が大きい。

* 直接利益には結びつかない。

* ITにより利便性は増したがセキュリティの面で常に検討が必要
  * 情報の持ち出し防止、ウイルス対策が常に必要
* システムへの依存が高くなると災害時などの致命的な機能停止が医療体制を揺るがす。
  * 災害を想定したシミュレーションの実施
* 問題が発生した時に、開発元がしっかりと対応してくれるかどうか。

今後の課題　2

ユーザー会　(平成23年10月22日　東京)

* 東北以北　9病院で開催
* 工夫点について交流できて有意義

★　期待したいこと

* セキュリティー管理
* DWH、検索、統計機能
* クリニカルパス

★★　もっと期待したいこと

* 経営戦略をたてる上でのデータ管理
* レセプトチェック
* 入院台帳、退院台帳管理

五稜会病院　これから

引き続きやるべき事

病床稼働率向上、専門療法数増加
治療レベルの向上
ストレスケア病棟治療プログラム充実
評判の良い病院創り

プロジェクトX

新病棟建設準備

* 平成24年　病棟試案・設計
* 平成25年　施行
* 平成26年　新病棟完成